

論文内容の要旨

専攻名	経営意思決定専攻	氏名	新井 友梨
題名	舞台芸術に携わる非営利事業体の効率性による業績評価について		
論文内容の要旨			
<p>舞台芸術に携わる非営利事業体の経営環境は、観客層の高齢化や自治体が主催する文化事業の縮小や廃止等により収入源が減少し、年々厳しくなっており、収入源の拡充と限りある資源の効率的な活用が益々重要になっている。こうした状況において、事業体は現在の業績を正確に測定し、把握する必要があるが、舞台芸術に携わる非営利事業体の定量的な業績評価方法は、一般に公演数や観客数等の実績値を量的比較等に留まり、業界で典型とされる方法は定まっていなかった。他分野の非営利事業体を対象とした業績評価方法としては、営利事業体に用いられていた財務分析を応用し、収益性や効率性を測る指標や、非営利事業体に特有の、補助金や寄付金への依存度を測定する指標、管理費や直接費を測定することで、資源の使途を評価する指標等があった。これらの指標は、同じ指標により他の事業体との相互比較を行うことができる一方で、複数の指標を総合することが難しい欠点があった。</p> <p>本研究ではこのような背景から、次の2点を克服する業績評価手法を明らかにすることを目的とした。一つ目は、舞台芸術に携わる非営利事業体の複数の業績を総合した事業体の相互比較を可能とすることである。二つ目は、業績を導くために要した資源が効率的に用いられているかを測る効率性の観点を評価に盛り込むことである。さらに、この業績評価指標が事業体の資金提供者へのアカウンタビリティを果たし、事業体が学習と改善を図る上での機能性と実用性を有することを条件とした。</p>			

氏名	新井 友梨
<p>効率性測定分野で、複数の業績を総合化して評価を行うことができる手法にデータ包絡分析法 (Data Envelopment Analysis, 以下 DEA) がある。しかし、日・米・豪のプロフェッショナル・オーケストラの業績を DEA により評価した先行研究では、DEA の基本モデルである BCC モデルや CCR モデルを適用し、評価を行っていた。このモデルはラディアル型に分類され、入力削減及び出力の拡張を比例的に最大化させるスコアを算出する特徴があるが、実社会においては全ての入出力が比例的に変化する例は稀である。また同モデルは、効率値を算出する際に、一部の入力過剰や出力不足を示すスラックを無視する可能性がある。さらに、同モデルはデータセットに 0 または負の値が含まれた場合に、正確な効率値と改善案を導くことができなかった。</p> <p>これらの課題を解決するため、本研究が独自に取り組んだ方法と成果は次の通りである。</p> <p>本研究では、舞台芸術に携わる非営利事業体の一例として、日本と米国のプロフェッショナル・オーケストラ事業体を研究対象とした。米国のプロフェッショナル・オーケストラを対象とした理由は、米国の非営利事業体は一般に、日本や欧州と比較して民間からの資金調達において多くの実績を有しており、今後、公的資金と民間資金の両方を十全に活用する必要性が見込まれる日本の非営利事業体の参考になると考えたからである。分析方法は、DEA の Slack-Based Measurement Model (以下、SBM モデル) を基本に用いた。</p> <p>米国のプロフェッショナル・オーケストラ事業体を対象とした分析では、事業体の財務に関する業績データから、1 期間 (2017 会計年度) における各事業体の効率値と、非効率な事業体に対する具体的な改善目標値を、Negative Data SBM 無指向モデルにより明らかにした。また、複数期間 (2015 会計年度～2017 会計年度) の同業績データに Negative Data Malmquist 無指向モデルを適用し、効率性の成長度合いを、全要素生産性を示すマルムクイスト指数により明らかにした (第 3 章)。</p>	

氏名	新井 友梨
<p>日本のプロフェッショナル・オーケストラ事業体を対象とした分析では、国内非営利法人が複数の類型に分類され、それぞれの準拠法や会計基準に基づき運営される特性から、財務情報のみならず、組織や受益者の規模からデータセットを構成し、法人種別を問わず横断的に分析できるようにした。このデータセットから、1 期間（2018 会計年度）における各事業体の効率値と、非効率な事業体に対する具体的な改善目標値を、SBM 出力指向モデルにより明らかにした。また、複数期間（2016 会計年度～2018 会計年度）の同業績データに、Malmquist 出力指向モデルを適用し、効率性の経年的な成長度合いを、マルムクイスト指数により明らかにした（第 4 章）。</p> <p>以上の結果をもとに、事業体の資金提供者へのアカウントビリティを果たし、事業体が学習と改善を図る上での機能性と実用性を有することから、舞台芸術に携わる非営利事業体の効率性による業績評価手法として、これらのモデルが機能し得ると結論づけた（第 5 章）。</p> <p>本研究成果は、舞台芸術に携わる非営利事業体の実務者に、具体的な改善点を示すことができる定量的な業績評価手法を提供するものであり、先行研究に追加的な貢献をもたらすものである。また本研究は、既に証明された DEA の各種モデルを用い分析を行ったため、本研究と同一のデータと手順により、同一の結果を導くことができ、論証可能である。</p>	